

第四次愛知県教育振興基本計画（仮称）第2回検討会議 発言概要

「めざす『あいちの教育』の姿」について

- 「人間像」「社会に役立つこと」が「あいちの教育の姿」「社会の担い手」となったことに賛成。（加藤委員）
- 「あいちの教育の姿」の文が長く、分かりづらい。（伊東座長）
- 現行計画の「世界にはばたく」の部分が「あいちの教育の姿」に入っていないのは、このボーダレスの状況でどうか。世界に目を向けるニュアンスは欲しい。（犬塚委員）
- 47都道府県のどこの振興計画か分からない。本県らしさをにじませることはできないか。工夫をこらして欲しい。（榊委員）
- 「あいちの教育」でよいのではないか。あえて「姿」を入れる理由があるか。（小野委員）
- 「資質を養い」とあるが、「資質」は生まれながらのものであるので、「養う」との表現は適切か。（小野委員）
- 「自分らしさを社会に生かす」の部分だが、「社会で」の方が適切ではないか。（土井委員）
- この文に書かれていることが、「姿」なのかは疑問。（柴田悦己委員）
- 「担い手」にはリーダーの印象がある。リーダーもいればそれに従う人もいる。全員が担い手になるのかは疑問。広い意味でのことか。どんな人であっても、それなりに「担う」ことができるということか。（伊東座長）
- 見直しの視点に「生命、多様性の尊重」とあり、「めざす『あいちの教育』の姿」の文中には「生命や多様な価値観を尊重」とある。これはイコールではないのではないか。検討いただきたい。（鈴木委員代理）

基本的な取組の方向について

- （1）と（2）の違いが分かりづらい。（山本委員）
- （1）と（2）をはっきり分けるとするならば、学び手が主体となる項目が（1）、社会の仕組みとして学び手を支える項目が（2）とすることも可能では。（柴田好章委員）
- （2）の「自ら学びに向かう教育を充実させ」の表現が伝わりにくいと感じる。「自ら学びに向かう態度を培う教育」または、「主体性を培うための教育」の方がよいのではないか。（青木委員）
- （7）の「大規模災害や感染症拡大等の緊急時においても、子供たちが安心・安全に学べることを保障します」について、大規模災害や感染症等は後の項目で触れても良いのではないか。また、「保障します」は思い切った表現であるので、「安心・安全に学ぶことができる環境づくりを推進します」のようにしてはどうか。（青木委員）

- 「人材を育成する」との表現が気になる。「人材」は狭い意味で、会社や専門学校で「人材を育てる」という使い方をされ、「役に立つ人を育てる」の意味合いが強い。国の振興計画を見ても、主要なところに「人材」は使っておらず、「人間を育てる」としている。(山本委員)

今後求められる取組《重点項目》等について

- 誤解のないように「ICT教育」よりも「ICTの活用」との表現にした方がよい。(玉置委員)
- 「アクティブ・ラーニング」は「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」とすべき。(玉置委員)
- 「外国人児童生徒」とあるが、「等」をつけるなどした方がよい。(土井委員)

取組の柱、施策の展開について

- (1)に「少人数教育の進行」とあるが、分かりやすく「少人数学級」とすべき。また、他の項目が「推進」「充実」等を使っていることを考えると「進行」では弱い。(青木委員)
- (1)の施策の展開について、改善のためにどういう施策をするのかを書くべき。(山本委員)
- (2)「情報活用能力の育成」と(8)「ICT教育の充実」の位置づけがよく分からない。整理が必要。(玉置委員、犬塚委員)
- (2)に「5G」との用語が出てくるが、通信速度に関する用語が県の計画に記載されるのはどうか。(黒田委員)
- (6)「環境教育・SDGsの推進」とあるが、SDGsがここだけという印象になる。全体にかかわるものではないか。(土井委員)
- (7)に「特色ある学科による県立高校の魅力向上」があるが、現在の県立高校に魅力がないからということなのか、県の組織で作っているから県立の魅力を書くのか、どちらにしてもよくない。(小野委員)
- (9)に「障害がある子の就労支援」があるが、違和感がある。働かなければいけないのか。スポーツ、文化などいろいろなところで花を咲かせる子がいる。就労に特化すべきでない。(内田委員代理)
- (9)に卒業後の継続的支援を入れるべき。(山本委員)
- (11)「生涯学習の推進」とあるが、振興計画の対象となる年齢の上限はどのようになっているのか。(犬塚委員)
- (11)に「中学校夜間学級等、学び直しの機会充実」とあるが、(7)「多様な学びを保障する学校・仕組みづくり」に位置付けるのが適切ではないか。(土井委員)
- (11)に親が子どもを教育するための学習機会の視点も入れて欲しい。(黒田委員)

- （１２）に「社会福祉に貢献できる人材の育成」とあるが、「社会福祉」をどのような意味で捉えているのか。（山本委員）
- （１２）に「LGBT理解、男女共同参画等の推進」とあるが、「性の多様性への理解」とするなど用語を検討していただきたい。分かりやすい記述にしてもよい。（土井委員）
- （１２）「多様性理解の推進」とあるが「理解」は進んでいる。更に踏み込んでよい。（鈴木委員代理）
- （１５）に「学校での居場所の確保」とあるが、施策として位置付けるのはどうか。「社会的自立に向けての支援」を先に書くべき。（青木委員）
- （１５）に「スクールカウンセラー等の相談事業」とあるが、「等」にはスクールソーシャルワーカーも入るのか。（土井委員）
- （１７）に「へき地教育の振興（ICTの利用）」とあるが、「へき地」という用語はどうか。（土井委員）
- （１７）に「へき地教育の振興（ICTの利用）」とあるが、「ICTの利用」を「遠隔授業の活用」とすべき。（玉置委員）
- （１８）の施策の展開の記述では「キャリア教育」が「ものづくりの精神を学ぶ」だけのものと捉えられるのではないか。（犬塚委員）
- （１９）に「高等学校での高度な理数教育の推進」とあるが、STEM教育のようなことか。「高度な」の表現は一部のエリートの印象がある。分かりやすい言葉にすべき。（山本委員）
- （２１）または（２２）に母語教育を入れるべき。（土井委員）
- （２１）「外国語教育の推進」は（２０）「グローバル化への対応の推進」に入るのではないか。（犬塚委員）
- （２２）「日本語指導が必要な子供たちへの支援の充実」は基本的な取組の方向１に位置付けるべきではないか。（青木委員）
- （２２）「日本語指導が必要な子供たちへの支援の充実」とあるが、「子供たち」を「児童生徒等」とすべき。（土井委員）
- （２３）に「学校の役割の見直し」とあるが、業務の切り離しも合わせて書くべき。（柴田好章委員）
- （２３）に「異なる学校種間の連携」とあるが、どういうことか。（柴田好章委員）
- （２３）に「地域人材の活用」とあるが、「地域人材の活用や外部機関との連携」とすべき。（柴田好章委員）
- （２３）に「少人数学級」「校務支援システム」を加えるべき。（柴田好章委員）
- （２３）に「部活動の在り方改革」とあるが、大会等を見直しなど、重点的な取組が必要。（加藤委員）
- 学校の役割の見直しを一番にすると県としての取組がよくわかるため、（２３）の施策の展開の順番を再検討すべき。（青木委員）

- （２５）にOJTの充実を書くべき。（柴田好章委員）
- （２５）に人材確保における教員の多様性の視点もあるとよい。（土井委員）
- （２６）「学校施設・設備の充実」に県立高校の設備の充実を入れていただきたい。（柴田悦己委員）
- （２６）の「特別支援学校の整備」があるが、国の設置基準整備の動きを受けた重点的な取組が必要。（加藤委員）
- （２７）に高大連携の推進を書くべき。（柴田好章委員）
- （２８）「私立学校の振興」とあるが、この位置ではなく、基本的な取組の方向２に入れるべき。（榊委員）
- 基本的な取組の方向６に「教師の働きがい」とあるが、教師は既に働きがいを感じている。教育の中身そのもので位置付けるべき。（榊委員）
- （３０）に災害時の中高生の社会貢献の視点も盛り込むべき。（黒田委員）
- 全般に横文字が多い。置き換えられるものは置き換えて欲しい。（小野委員）
- リベラルアーツに親しむ姿勢を育てる項目を入れたい。（犬塚委員）